

## 配合変化試験

d-クロルフェニラミンマレイン酸塩シロップ 0.04% 「ツルハラ」 の配合変化につき検討した。

### <方法>

d-クロルフェニラミンマレイン酸塩シロップ 0.04% 「ツルハラ」 の用法・用量は成人 1 回 2 mg (シロップ 5 mL) を 1 日 1～4 回経口投与するとなっているので、配合変化試験では 1 回量を目やすとした。配合直後及び 7 日後に pH を測定し、性状及び再懸濁性を随時観察した。

保存条件は室温とした。

### <考察>

懸濁液であるフスタゾールシロップ (同仁-三菱ウェルファーマ) との配合変化により少量の沈殿が認められたが、再懸濁性は良好で、使用時よく振とうすれば問題はないと思われる。その他には今回の実験において配合変化は認められなかった。

配合薬品名	会社名	用 量 配合量	日 数 項目	配合変化	
				配合直後	7 日後
FAD シロップ(ツルハラ) 黄色澄明 pH5.14	鶴原	1.7～15mL/日 7mL	シロップ状態	橙色澄明	○
			pH	5.14	5.20
			再分散性	/	
スカノーゼリンシロップ 無色澄明 pH3.22	鶴原	3～12mL/日 2mL	シロップ状態	橙色澄明	○
			pH	3.80	3.76
			再分散性	/	
ポントールシロップ 白色沈殿 再懸濁性 良 pH4.03	三共	小児用 0.6mg/Kg/日 3mL	シロップ状態	橙白色懸濁液 (均一)	○
			pH	4.28	4.27
			再分散性	/	
フスタゾールシロップ 白色懸濁均一 pH4.97	同仁- 三菱ウ ェルフ ァーマ	10～15mL/日 6mL	シロップ状態	橙白色懸濁液 (均一)	○
			pH	5.15	5.03
			再分散性	/	
タベジールシロップ 無色澄明 pH6.11	三共- ノバル ティス	20mL/日 2mL	シロップ状態	橙色澄明	○
			pH	5.56	5.53
			再分散性	/	
C-チステンシロップ5% 褐色澄明 pH5.37	鶴原	0.6mL/Kg/日 5mL	シロップ状態	褐色澄明	○
			pH	5.53	5.09
			再分散性	/	
アストミンシロップ 橙色澄明 pH4.07	山之内	3～14mL/日 5mL	シロップ状態	橙色澄明	○
			pH	4.28	4.19
			再分散性	/	
ビスルボンシロップ 無色澄明 pH3.62	中北- 日本ベ ーリン ガー	15mL/日 5mL	シロップ状態	橙色澄明	○
			pH	3.86	3.81
			再分散性	/	
メジコンシロップ 褐色澄明 pH3.90	塩野義	18～24mL/日 10mL	シロップ状態	橙色澄明	○
			pH	4.10	4.21
			再分散性	/	

○印：配合直後に比し変化なし

—印：測定せず